

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0268

(注)本稿は 2013 年 6 月 5 日から 22 日までの 5 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2013.6.22
前田 高行

MENA(中東・北アフリカ)22カ国の旅行・観光産業競争力指数(2013年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その16)

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. 「Travel and Tourism Competitiveness Index」について	2
2. UAE は世界総合順位28位で MENA トップ	3
3. 分野別のランク	3
4. 前回(2011年)及び前々回(2009年)との比較	6
5. MENA 主要3カ国とスイス、日本、米国との比較(レーダーチャート)	7

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19の国と1機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら19カ国・1機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第16回のランキングは、「世界経済フォーラム(World Economic Forum, 略称 WEF)」が公表した

「The Travel and Tourism Competitiveness Index(TTCI) 2013」について MENA 諸国をとりあげて比較しました。

* TTCI のホームページ:

<http://www.weforum.org/reports/travel-tourism-competitiveness-report-2013>

1. 「Travel and Tourism Competitiveness Index」について

「Travel and Tourism Competitiveness Index」(旅行・観光産業競争力指数、以下 TTCI)は、スイスで開催される「ダボス会議」の主催者として世界に名を知られている「世界経済フォーラム(World Economic Forum, 略称 WEF)」が作成したものである。

2013年度レポートでランク付けの対象となった国・地域のは数は144であるが、そのうち MENA は前回(2011年度)より2カ国減り15カ国である。ちなみに今回ランク付けの対象とならなかったのは、チュニジア、シリア、リビア、イラク及びパレスチナ自治政府の4カ国1機関であった。

TTCI は(A)T&T regulatory framework (旅行・観光に対する規制の枠組み)、(B)T&T business environment and infrastructure (旅行・観光ビジネスの環境とインフラ整備度)、(C)T&T human, cultural, and natural resources (旅行・観光に関する人材、文化及び自然資産の充実度)の三分野に分かれ下記の14項目の Sub Index について評価対象としている。項目ごとに7点満点とする各国毎の点数をつけ、それらを総合した指数が各国のランクとなっている。

A. T&T regulatory framework (旅行・観光に対する規制の枠組み)

- (1) Policy rules and regulations (規則)
- (2) Environmental sustainability (環境持続性)
- (3) Safety & security (安全)
- (4) Health & hygiene (衛生)
- (5) Prioritization of travel & tourism (観光産業に対する優先度)

B. T&T business environment and infrastructure (旅行・観光ビジネスの環境とインフラ整備度)

- (6) Air transport infrastructure (空路インフラ)
- (7) Ground transport infrastructure (陸路インフラ)
- (8) Tourism infrastructure (観光インフラ)
- (9) ICT infrastructure (情報インフラ)
- (10) Price competitiveness in T&T industry (価格競争力)

C. T&T human, cultural, and natural resources (旅行・観光に関する人材、文化及び自然資産の充実度)

- (11) Human capital (人的資源)
- (12) Affinity for travel & tourism (吸引力)
- (13) National resources (自然資源)

(14)Cultural resources (文化資源)

2. UAE は世界総合順位28位で MENA トップ

(詳細はhttp://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/16-T01.pdf 参照)

ランク付けされている MENA15カ国の中で TTCI が最も高いのは UAE であり、世界ランクは28位である。この他世界ランク50位以内に入っているのはカタール(世界41位)及びトルコ(同46位)の3カ国だけである。これまで常に50位以内に入っていたチュニジアは「アラブの春」の火元となった国であるが、イスラム政権が誕生、ヨーロッパからの観光客から敬遠されたのか今回のランク付けの対象からはずれている。またイスラエルもチュニジア同様前二回は50位以内であったが今回53位に落ちており、これはシリアの内戦激化など中東情勢の緊迫化の影響が出たと考えられる。

MENA5位以下は、バハレーン(世界55位)、オマーン(同57位)、ヨルダン(同60位)、サウジアラビア(同62位)、レバノン(同69位)、モロッコ(同71位)と続いており、これら10カ国が世界144カ国の中では上位グループに入る。バハレーンは天然資源に乏しく観光を重要産業の一つと位置付けサウジアラビアから観光客を呼び入れることに熱心である。一方、サウジアラビアには名の通った歴史遺産や自然遺産は少ないが、イスラム教の聖地メッカ(マッカ)とマディナがあり、世界中から毎年数百万人のイスラム教徒が巡礼に訪れる。「巡礼」を観光とみなすか否かには異論もあるが、日本でも「お伊勢参り」が信仰を兼ねた観光旅行として江戸時代から盛んに行なわれてきたことを考えると、立派な観光資源と考えることができる。サウジアラビアには巡礼省と呼ばれる専門の省庁があり、また巡礼で聖地を訪れた旅行者が同国内の他の地域に足を伸ばすことを狙って「サウジアラビア観光・文化遺産委員会(SCTA)」を設立し、観光振興に力を入れている。

モロッコに次ぐ MENA11位はエジプト(世界85位)である。同国の観光産業はスエズ運河通航料、海外出稼ぎ者の送金と並ぶ国家歳入の三本柱の一つであり、世界中から観光客が訪れるが、アラブの春により世俗的な独裁政権が倒れイスラム政権が生まれて以降、経済が停滞し電力など国内インフラは大きく傷んでいる。このため観光競争力が劣化していると評価された。イラン(世界98位)もエジプト同様多くの観光資産を保有しているが、欧米諸国の経済制裁により観光産業は停滞し、競争力が低下している。

MENA ではこの他クウェイト、アルジェリア、イエメンの3カ国がランク付けされているが、いずれも世界100位以下である。

因みに TTCI 世界ランク1位はスイスであり、米国は6位、日本は14位である。また中国の世界ランクは45位でありトルコと同程度と評価されている。

3. 分野別のランク

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/16-T02.pdf 参照)

冒頭に述べたように総合ランクは三つの分野、合計14項目の評価ポイントにより決められている。ランク付けされている MENA15カ国について、これら14項目毎の順位を見ると以下の通りである。

A. Regulatory framework (旅行・観光に対する規制の枠組み)

(1) Policy rules and regulations (規則)

この項目では UAE がトップであり同国の世界順位は13位である。これに続いてトルコ(世界34位)、ヨルダン(同35位)、オマーン(同38位)が世界30位台に、またイスラエル(42位)、モロッコ(44位)及びカタール(47位)が世界40位台につけている。一方クウェイト、イラン、アルジェリア、イエメンは120位以下である。

(日本36位、米国23位、中国86位)

(2) Environmental sustainability (環境持続性)

トップはモロッコ(世界31位)である。これに続くのがヨルダン(同46位)、カタール(同59位)、イスラエル(同60位)となっており、これら4カ国が世界144カ国の上位グループに入っている。一方順位が低いのはクウェイト(140位)のほかアルジェリア(136位)、イエメン(131位)、サウジアラビア(130位)である。MENA 諸国は全般的にこの項目の順位が低く、MENA15カ国の平均世界順位は97位であり、14項目の中では「自然遺産」(下記項目13)に次いで低い。

(日本47位、米国112位、中国109位)

(3) Safety & security (安全)

カタールがトップで同国の世界順位は21位である。二番目に高いのがオマーン(世界30位)、サウジアラビア(同42位)の GCC 諸国が上位に連なっている。一方観光面で安全度が低いと評価されたのはエジプト(世界140位)で同国は全世界の調査対象国144カ国の中でも最低レベルである。

(日本20位、米国57位、中国67位)

(4) Health & hygiene (衛生)

旅行・観光の衛生面で最も高い評価を受けたのはイスラエル(世界26位)である。これに次ぐのがレバノン(同33位)であり、エジプト(同57位)、カタール(同58位)、ヨルダン(60位)、UAE(同61位)、クウェイト(同62位)、トルコ(64位)が60位前後で並んでいる。これに対しイエメン(同127位)、モロッコ(同104位)は世界順位が100位以下である。

(日本16位、米国51位、中国82位)

(5) Prioritization of travel & tourism (観光産業に対する優先度)

MENA 諸国の中で最も観光産業を重視している国がヨルダン(世界14位)であり、エジプト(同18位)と共に世界の上位に入っている。両国に共通しているのは石油など天然資源は乏しいが外国人を惹きつける観光資源が多いことであり、観光による外貨獲得を国策として振興していることである。その他の MENA 諸国はイラン(同130位)、アルジェリア(同140位)など観光産業振興に対する意欲が薄い国が多い。

(日本42位、米国30位、中国45位)

B. Business environment and infrastructure (旅行・観光ビジネスの環境とインフラ整備度)

(6) Air transport infrastructure (空路インフラ)

観光客を誘致する航空路が最も整備されている国として高い評価を受けたのはUAEで世界ランクは3位と言う高い評価を受けている。同国のドバイ空港は周辺国のみならず中央アジア、東アフリカなど広域圏のハブ空港となっており、MENA では今や別格的な存在である。二番目はカタール(世界23位)、三番目はトルコ(29位)でこれら3カ国に次ぐのがバハレーン(38位)、サウジアラビア(42位)である。本項目の MENA 平均順位は世界144カ国中の上位グループと言える60位であり、これは価格競争力の項目の世界平均順位43位に次いで高く、MENA は比較的空路インフラが整備されているようである。

(日本25位、米国2位、中国35位)

(7) Ground transport infrastructure (陸路インフラ)

国内の陸路インフラが整備されているのはバハレーン(世界11位)、UAE(同26位)、カタール(同35位)、オマーン(同41位)等であり、オイル・マネーで道路が整備されている GCC 各国が上位に並んでいる。

(日本7位、米国27位、中国51位)

(8) Tourism infrastructure (観光インフラ)

MENA で観光地のインフラが最も整備されていると評価されたのは UAE で、同国の世界順位は24位である。これに続き世界50位以内に入っているのはレバノン(世界27位)、カタール(同37位)、トルコ(同45位)、サウジアラビア(同47位)である。一方インフラ整備が遅れているとされたのはイラン(同133位)、アルジェリア(同131位)であり調査対象国144カ国の中でも最低レベルである。

(日本53位、米国13位、中国101位)

(9) ICT infrastructure (情報インフラ)

旅行・観光に関する情報インフラではイスラエルが MENA トップで世界順位は27位である。イスラエルに次いで情報インフラが整備されているのはカタール(世界32位)、以下 UAE(同39位)、サウジアラビア(同45位)、バハレーン(同47位)、オマーン(同53位)、クウェイト(同54位)の順である。エジプトは世界順位80位であり、イラン(同93位)とともに情報整備が遅れている。

(日本7位、米国17位、中国74位)

(10) Price competitiveness in T&T industry (価格競争力)

この項目は総合順位とは対照的な様相を示している。即ち国別ではイランが世界1位であり、エジプト(同4位)、バハレーン(同7位)、イエメン(同10位)で世界のベストテンに4カ国が入っているが、このうちイラン、エジプトは総合順位が80~90位であり、イエメンは133位である。これらの国々は人件費や物価が安いことがその主要因である。

これに対しイスラエル及びトルコの世界順位はそれぞれ133位及び112位である。価格競争力の MENA の世界平均順位は43位で、14項目の中では最も高い。総合評価世界1位のスイスも価格競争力は世界139位である。また日本も130位であり先進国の旅行観光は高コスト体質である

ことがわかる。

(日本130位、米国94位、中国37位)

C. Human, cultural, and natural resources (旅行・観光に関する人材、文化及び自然資産の充実度)

(11) Human capital (人的資源)

人的資源ではカタール(世界7位)、UAE(同15位)が優れており、これに続くのがバハレーン(同26位)、サウジアラビア(同30位)、イスラエル(同31位)の各国であり、GCC 諸国のランクが高い。

(日本21位、米国14位、中国38位)

(12) Affinity for travel & tourism (吸引力)

観光客を惹きつける魅力のある国としてレバノン(世界1位)とされている。MENA 諸国でこれに続くのはヨルダン(同13位)、モロッコ(同22位)、UAE(同24位)である。レバノン、ヨルダン、モロッコには古代文明遺跡或いは中世のイスラム文化が残っており、観光客や旅行者がそれらに惹かれていることを示している。一方 UAE は高さ800メートルを超える世界最高層ビル「ブルジュ・ハリーフ」や大型ショッピングセンター、リゾートホテルなどドバイの近代的な施設が世界中の観光客を引き寄せている。

(日本77位、米国69位、中国129位)

(13) Natural resources (自然資源)

中東北アフリカは平坦な砂漠の乾燥した国が多く、自然の景観は変化に乏しい。このためこの項目は14項目の中で平均世界順位が最も低く102位である。MENA ではサウジアラビアがトップであるが、その世界順位は69位にとどまっている。

(日本21位、米国3位、中国5位)

(14) Cultural resources (文化資源)

この項目で MENA トップはトルコ(世界19位)であり、これに続くのが UAE(同33位)、イラン(同45位)、モロッコ(同49位)などである。この他世界60位台にいたのがイスラエル、エジプト、カタール、バハレーン、レバノンの各国である。

(日本11位、米国5位、中国15位)

4. 前回(2011年)及び前々回(2009年)との比較

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/16-T01.pdf 参照)

各国の競争力順位を過去2回(2011年及び2009年)と比較すると、UAEは33位('09年)→30位('11年)→28位('13年)と毎回順位を上げており、MENA 諸国の中では連続してトップである。UAE のように毎回順位を上げている国にはトルコ(56位→50位→46位)やオマーン(68位→61位→57位)などがある。トルコは経済が好調であり治安も良好なため海外からの観光客が増加しているようである(但しごく最近イスタンブールなど大都市で反政府デモが頻発している)。

このように評価を上げている国は少数であり、MENA の平均順位は過去 3 回を見ると66位（'09年）→72位（'11年）→73位（'13年）が示す通り毎回下がっている。国ごとに見ても例えばエジプト(64位→75位→85位)やイスラエル(36位→46位→53位)のように 3 年連続して順位を大きく下げている国や、バハレーン(41位→40位→55位)やアルジェリア(115位→113位→132位)のように2013年の順位が2009年から大幅に落ちている国が少なくない。またシリアは2009年から2011年にかけて85位から105位に急落し、リビアも同様に112位から124位に落ちた後、今回は評価の対象外となっている。

バハレーン、エジプト及びリビアは2011年に発生したいわゆる「アラブの春」の騒乱で国内の治安が悪化し、旅行・観光業が大きな打撃を受けている。またシリアも内戦状態にあり競争力の評価を行える状況ではないと言えよう。

5. MENA 主要3カ国とスイス、日本、米国との比較(レーダーチャート)

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/16-G01.pdf参照)

UAE、トルコ、エジプト、エジプトと総合順位世界1位のスイス及び日本(総合14位)、米国(同6位)各国の項目別世界順位をレーダーチャートにより比較してみる。レーダーチャートは最も外側が世界順位1位であり内側の中心は世界151位である。また最上段の A から N までの記号は第二項に述べた調査項目の(1)から(14)を示している。各分野の世界順位を結ぶ青い輪が各国の状況である。レーダーチャートの青い輪が外側に広がっているほど世界での順位が高く、また輪の形が円に近いほど各分野の均衡がとれていることを示している。

総合順位28位の UAE は空路インフラが世界3位と傑出している。その他の項目も大半が20位～50位であり、全体にバランスが取れているが、環境持続性(91位)及び自然資産(71位)の2項目が劣っている。同国はアラビア半島砂漠の沿岸に位置しており自然の景観と呼べるものは無く、一方オイル・マネーによる急速な都市開発により環境の持続性が危ぶまれているためと考えられる。

トルコ(総合46位)は14項目の中では文化資産(19位)、空路インフラ(29位)、規則(34位)などの評価が高く文化遺産による観光客の誘致に力を入れていることがわかる。その他の項も価格競争力(112位)を除き全て100位以内であり、比較的バランスのとれた競争力を示している。

トルコに並ぶ観光立国のエジプトは総合順位が85位であるが、項目による変動が大きい。例えば価格競争力は世界4位のトップクラスであり、観光産業に対する優先度(18位)も高く評価されている。しかし安全(140位)、環境持続性(121位)、人的資源(105位)などに問題を抱えており、また陸路インフラ、観光インフラなど観光産業のソフト面での充実が課題である。

これら MENA 諸国を欧米先進国と比べると総合世界1位のスイスはあらゆる面で世界のトップレベルにあり、ただ価格競争力だけが低い(139位)。米国(総合6位)は空路、自然、文化の項目で世界のベストテンに入っており、観光インフラ(世界13位)、人的資源(同14位)、規則(同23位)、陸路インフラ(同27位)なども高い評価を得ている。しかし同国は環境持続性(112位)、価格競争力(94

位)の評価は低い。

日本は総合14位であり前回2009年の22位よりかなりレベルアップしている。日本の場合は陸路インフラ、情報インフラ(共に7位)、文化資産(11位)、衛生(16位)などの世界順位が高い一方、価格競争力(130位)の順位が極めて低く、この面では米国と同様の傾向を示している。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maedat@r6.dion.ne.jp